



第 60 回山口大学常盤台コロキアム

2017年5月9日（火曜日）午後1時30分から
山口大学工学部 D11 講義室（宇部市常盤台二丁目）

山口大学大学院化学系では、大学院学生が化学とその関連分野の幅広い知識を身につけ、教職員の研究活動の幅を広げることを目的として、常盤台コロキアムを開いています。化学研究の第一人者の先生方の最先端の研究のお話を聞けるチャンスです。化学系をはじめとした山口大学のすべての大学院学生・学部学生・教職員のご参加を歓迎します。また、近隣の研究機関、企業の方もどうぞお誘いあわせの上おいでください。入場無料です。

午後1時40分より

山口大学創成科学研究科准教授 西形 孝司 先生

「 α -ハロカルボニルアミドの反応性制御に立脚した
同一分子から2つの異なる分子デザイン」

α -ハロカルボニルアミドには、炭素、窒素及び酸素と反応性を示す元素が3つ存在する。これらの反応性をうまく制御できれば同一分子から複数の分子骨格へと変換できる可能性がある。本講演では、銅触媒を用いることで α -ハロカルボニルアミドからオレフィンやヘテロ環状化合物を選択的に合成する手法について解説します。

午後2時40分より

愛媛大学理工学研究科教授 宇野 英満 先生

「高共役 π 電子系近赤外色素の合成と物性評価」

700nm以上の波長を有する赤から近赤外の光を吸収する色素は、この領域の波長を持つ光の生体透過性がよいために、生体深部組織の可視化や光線力学療法などへ応用されている。本講演では、我々の研究室で行っている π 電子系色素を融合する手法を用いる新しい近赤外色素の合成とその物性を紹介します。

午後3時40分より

鳥取大学工学研究科教授 伊藤 敏幸 先生

「イオン液体で変わる次世代不揮発性メモリ」

ナノサイズの多孔質を持つ金属酸化物を銅とPt薄膜でサンドイッチすると電圧のスイッチングで不揮発性メモリが構築できる。我々は金属酸化物多孔内にイオン液体を内包させることで動作電圧を低減し、且つ、スイッチング耐性を飛躍的に向上させることに成功しています。イオン液体エンジニアリングで、USBメモリに較べて動作電圧1/10、応答速度1000倍以上、HD並の容量を持つ革新的な不揮発性メモリができるかもしれません。

なお、この講義は創成科学研究科化学系専攻の「最先端生命化学特別演習」認定の講演会です。

問い合わせ先：化学系専攻 上村 明男（0836-85-9231）